〈カメラ・ルポ〉

こんなに伸びたジャージー酪農

小国町

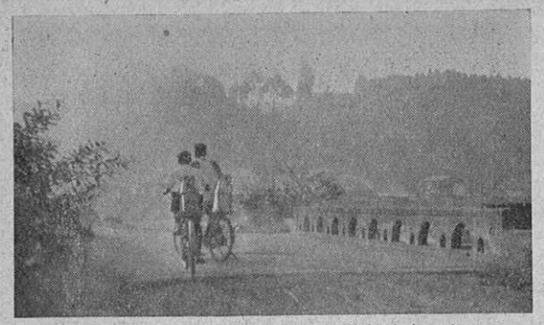
↑農協の共同飼育場ではいまこうしが百七十頭程飼育されており、岡山、宮崎栃木方面へ移出されている。

■午前三時……杉山に囲まれてしんしんと眠る小国の町をあとにジャージー牛乳を満タンした輸送車が、北九州へ向かつて出発する。毎日二十石をこうして移出し、三石は市乳として販売しているが、三十五年度の乳代金はざつと五千万円。

■五年前、豪州から導入して以来、いま小国町だけでも千三百頭。飼養農家は全農家の約半分の五百戸。

■町当局と農協では、今後の増殖計画を三十八年度で三千七百頭まで伸ばし、乳代金の年間総額を一億五千万円まで増やそうとねらつている。

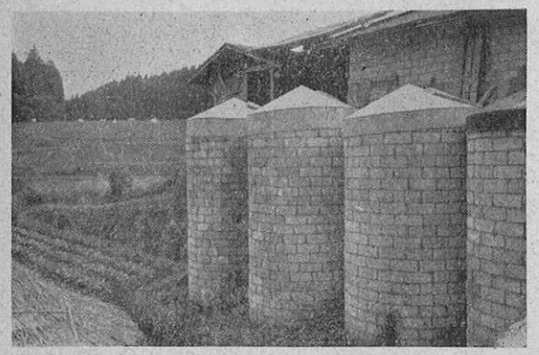
■現在小国町と南小国村の米代金が合計約一億四～五千万円というから、ジャージーが米にとつてかわるほどの勢いだ。



↑ 朝霧をついて、中学生たちは登校途中に牛乳を出荷しにいく……

↑ 「ハイ松崎さん、1等乳、262kg……」 朝の集乳所は伝票切りで忙しい……

↑ これが自慢のタンク・ローリーという輸送車。牛乳は摂氏2度の低温のまま5時間で八幡まで



↑ 農家には立派なサイロが……手前の畑は飼料のカブ。前方杉山の草地が共同放牧場……町全体の飼料対策は、あと作利用200ha、飼料専用圃が130ha、改良牧野280haで合計610ha。

↑ 昨年度農業日本一表彰の酪農部門で農林大臣賞をもらつた松崎謙一さん（中央）のジャージーは、搾乳牛8頭、育成牛2頭。乳代金は現在月平均9万円という。今年は粗収入年間125万円を目標として頑張つている。

〝いずみ号〟がんばる

□ 県立図書館の自動車文庫 □

読書グループでひつぱりだこ

♣今日もまた県立図書館自動車文庫「いずみ号」は、千五百冊の本をぎつしり積んで町から村へ、村から町へと巡回している。

♣百三十五万円を投じて購入した「いずみ号」が巡回するようになつてからというもの、各地の読書グループの数は急速に増えて、今では「いずみ号」の貸し出しグループは約千、利用人員は一万四千という。貸し出しはもちろん無料。

♣巡回コースは文字どおり県内くまなく……。十コースを十週間かゝつて一巡するというから、大体二カ月に一回廻つてくる。係員は「家へ帰るヒマもありませんよ」と笑つている。

♣とにかく「いずみ号」はひつぱりだこ。ここ阿蘇郡蘇陽町の読書グループもその例にもれず熱心な人たちばかり。

生活改善のあかつき会、婦人会の栗の実会、文字ケ崎〝幸の会〟神の前・大野・白石の各農事研究会の皆さんも「いずみ号」の大のファンだ。

♣「農事研究会のテキストとして実に良い本がある」「生活改善関係の本もいいが、仕事のあとで読む小説も楽しい」「巡回の本は主人とひつぱりだこです。おかげで話題が一致するので、夫婦円満の妙薬ですよホホ…」と大変な好評。

♣だが「山の奥だからいつも選び残りばかり。タマには巡回コースを逆に廻つて、こちらに早く来てもらいたい」とか「貸出し期間は二カ月でも短い」という熱心な希望もある。

♣蘇陽町の読書グループの世話をしている農業改良普及所の甲斐洋子さんは「都市と農村の精神的、知識的格差をなくすためにも、いずみ号の果す役割は大きい」と云う。

♣県立図書館では熱心な要望に応えるため将来は五万冊ぐらいまで増やしたいといつている。

モニタールーム

産業の振興と開発をはかるためには、土地の基礎条件の整備が重要。そこで、かんがい用水の拡充や畑地かんがいの開発が考えられるが、畑地かんがいのためには、大いにポーリングをやつたらどうだろうか。また、現在私の村でやつている土地改良かんが事業の早期完了をお願いする。

（阿蘇郡久木野村、一モニター）

答

畑地かんがい事業は、最近急速に発達し、現在は、水田かんがいをしのぐものがありますが、その水資源は、まだ地下水や溜池に頼る道が残されているとも言える状態です。

ところで、団体営土地改良事業等の公共事業では、井戸の試掘費は認められておらず、水量が実際あつたら採択するという方針です。

県では、この対策として、昭和三十五年度から、畑地基盤強化事業で、将来、畑地かんがい田畑輪換を実施する地区で、その団地面積百ヘクタール以上の地区に対し、七割～八割の補助率でさく井を実施しております。

これも地下水が確実に存在するとわかつている地区だけを採択実施しています。

また久木野村のかんがい排水事業は、ご承知のとおり、久木野土地改良区において団体営事業として、総事業費一億七千百万円で、受益面積六一三・五ヘクタールのかんがい排水事業を三十四年度から着工して継続実施中です。

ご要望の地区は、保木下用水路の改修事業ではないかと推察されます。この用水路は漏水防止のため、コンクリートの三方張りを実施する計画になつていますが、現在、上流部の基幹工事（揚水機工）を実施中です。

なにしろ、規模が大きい反面国からの予算割当が少ないので、下流部まで施行するには、若干の日時を要するのではないかと思われますが、現在全体計画を再検討して、事業の早期完了に努めています。

（耕地第一課）